

講演Ⅲ

「地域在住高齢者を支えるために、 作業療法士に期待すること」



講師

はたのりハビリ整形外科 院長

畑野 栄治 先生

戦後生まれの団塊世代が後期高齢者になる 2025 年を控えて、国は地域包括ケアの体制作りを目指している。今後、医療制度と介護保険制度は地域包括ケアをキーワードとして制度改革がおこなわれる。地域包括ケアは住まい、生活支援サービス、介護予防、介護そして医療の五つの完結を生活圏域内で求めるものである。この五つの因子はいずれも作業療法士が得意とする生活行為に密接に関係している。作業療法士が病院や施設内の自宅模倣のリハ現場から脱出して高齢者の生活の現場に積極的に出向かけて、そして実生活の自立支援と生活行為向上の面で自らの専門性を生かしてほしい。地域包括ケアシステムの中で作業療法士に期待している役割について、生活期リハビリを実践しているリハビリ専門医の立場から提言してみたい。

【略歴】

昭和 48 年 広島大学医学部医学科卒業

平成 4 年 はたのりハビリ整形外科開業

平成 9 年～ 日本リハビリテーション病院・施設協会 理事

平成 11 年～ 広島県訪問看護ステーション協議会 副会長

平成 18 年～ 広島県訪問看護ステーション協議会 理事

平成 19 年～ 広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会 理事

平成 23 年～ 全国老人保健施設協会 代議員

平成 24 年～ 広島市老人保健施設協議会 会長

〃 広島県老人保健施設協議会 副会長

〃 広島県地域包括・在宅介護支援センター 副会長